

行橋市室内型子どもの遊び場 シンボルマークリスト

※デザイン内に名称が含まれているロゴマークはこの応募で決定した名称へ修正する予定です。

番号	ロゴマーク	ロゴマークの説明
1		行橋市の近年のマークを見ると「行」「ゆ」など文字を使った作品が多く、このデザインも「行」の篆書体(テンショ)の文字をモチーフに4人の子供が広場で楽しんでいる様子を表現しました。
2		行橋市の花「コスモス」をメインモチーフにしました。花びらは虹のようにカラフルな7色にし、多様性や楽しさを表現しました。顔には行橋市のYが隠れており、花びらが重なってハートマークのような形になることで、お子さんが安心して遊べる施設であることを表現しています。屋内施設なので、天候に関係なく「いつでも太陽のように明るい場所」というイメージを持ってもらえるよう、雨が上がった後の虹をイメージさせるカラフルなデザインにしました。
3		このロゴは施設内でも特に象徴的な雲のすべり台とそのエリアにかかる虹をモチーフにしています。また、星のモチーフはこども達ひとりひとりの輝きと未来への可能性の願いを込めています。こども達の成長と笑顔を願う気持ちを込めて、このロゴをデザインしました。
4		タイトル：「みんなの手でつながる、色とりどりの遊び場」 ①【カラフルな子どもの手】 子どもたちの「手」を輪のようにつなげることで、協力・つながり・多様性（インクルーシブ）を表現。 手の色は、さまざまな個性や背景を持った子どもたちを象徴。誰もが仲間であり、一緒に遊べる安心感と温かさを示しています。 ②【虹のモチーフ】 子どもたちの未来への希望・夢・可能性を表現。 虹のアーチは、「包みこむ」「見守る」という意味も込め、安心・安全な遊び場をイメージ。 ③【柔らかいフォント】 漢字表記を用いながらも、子どもにも読みやすいように丸みを持たせています。「YUKUHASHI」の英語表記を入れることで、地域名の誇りや全国的な認知も意識しています。 【込めた思い】 障がいのある子もない子も、一緒に遊べるインクルーシブな環境づくりというビジョンを、「手をつなぐ輪」と「虹」で明るくわかりやすく伝えています。

行橋市室内型子どもの遊び場 シンボルマークリスト

※デザイン内に名称が含まれているロゴマークはこの応募で決定した名称へ修正する予定です。

番号	ロゴマーク	ロゴマークの説明
5		「自然」「冒険」「ワクワク」「子ども」「カラフル」に加え「Forest」「Sea」「Train」の要素を入れています。
6		安心できる空間の中で、子供たちが出会い、絆を深め、未来に向かって夢を育む。その想いを、一つの形にしました。様々な個性を持つ子供たちが、互いに手を繋ぐことで施設が目指す「コミュニティの繋がり」を表しています。 遊びを通じて自然に生まれる友情や信頼関係、誰もが受け入れられる温かな空間を表現しました。中央に浮かぶ風船は、子供たちの夢や希望を表現しています。たくさんの色は一人ひとりの個性と無限の可能性を想い描きました。 上に向かって広がる動きで、「未来への飛躍」と「成長」をイメージしています。全体を囲う丸い輪は、天候に左右されず遊べる「もう一つの大きな公園」を表現しています。また輪で全体を包むことで、繋がり・無限という想いを込めました。このロゴが、想いを表すシンボルとなり、多くの人に「ここなら安心して子供を連れて行ける」と感じていただけるよう願っています。
7		名称は未定ですが、入り口から線路が引かれていた様子から、建物自体を駅と見立ててデザインを作成しました。ロゴは駅の看板をモチーフとし、シンボルは街の象徴でもある行橋駅をオマージュにした形状としております。シンプルながらも、子供の頃に汽車で旅をする時のような特別感やワクワク感を引き出すようなデザインをめざしました。 また、室内には様々なアクティビティが展開する中、その全ての遊び場を駅としてサインデザインを展開していくことで、子供たちは街を巡る汽車となり、様々な駅を冒険するストーリーが生まれるのではないかと考えました。そのため本提案では、メインのロゴに加え、室内のサインイの展開イメージも作成しております。
8		明るい色使いと、子どもたちの躍動感に太陽や山、川のモチーフが加わって、屋内施設というだけでなく「自然の楽しさ」や「元気さ」を表現しています。安全・繰り返し訪れたくなる施設というメッセージを伝え、元気で魅力的なデザインとしました。
9		地域の子供達が力強く大地に根を張って、逞しく育つ樹木のイメージでデザインしました。各セクションのイメージを盛り込み、カラフルで楽しげなマークに仕上げました。
10		地域の子供たちが力強く大地に根を張って、たくましく育つイメージでデザインしました。各セクションのイメージを盛り込み、カラフルで楽しげなマークに仕上げました。

行橋市室内型子どもの遊び場 シンボルマークリスト

※デザイン内に名称が含まれているロゴマークはこの応募で決定した名称へ修正する予定です。

番号	ロゴマーク	ロゴマークの説明
11		名称に POKKE を応募させて頂きました。 名称の応募理由と同じように、海 山 森 街.. それぞれの遊び場スペースが、外の世界を小さな空間に閉じ込めた様な、夢をポッケに詰め込んだ様な印象を受けたので、それぞれのポッケ(遊び場スペース)で子供たち一人ひとりの夢や感性が育つよう希望をこめて。それぞれの遊び場スペースのコンセプトがポッケに詰め込んだイメージでこちらのロゴで応募させて頂きました。
12		このロゴは、行橋市の新しい室内遊び場が、子どもたちの「夢と希望」を育む場所となることを表現しています。 ロゴの大きな特徴である「虹」は、行橋市を象徴する「橋」をイメージしています。0歳から12歳の子どもたちが、外の世界から室内へ、この楽しい虹の橋を渡って訪れる様子を描きました。子どもたちが手に持つ風船は、それぞれの心の中にある夢や希望が、この場所で大きく膨らむことを願っています。 ロゴのアイコンは、室内の多様な遊びを表現しています。ボールプール、自然を感じるエリア、思い切り体を動かせるエリアなど、様々な遊びを通じて、子どもたちが心も体も健やかに成長できるよう、一目でわかるようにしました。全体的に淡い色を使うことで、安心感があり、誰もが優しく迎え入れられるような雰囲気大切にしています。
13		赤いフラッグがはためいている、まあい屋根を上部に乗せてみました。室内の遊び場ということを表しています。 その下に、行橋市の最初のひらがな「ゆ」のカタチをモチーフに、 積み木を積んだり、繋げたりしてみました。ビビットな色合いで、いろいろな遊びや体験ができるバラエティ感を表現しています。 まあい屋根に守られて、子ども達が元気に遊ぶというイメージのロゴマークです。
14		子供らしさと分かりやすさを伝えるため顔を意識しました。施設内イメージ図にあるエリアタイトルの「電車、山、町、海、空、雲、森」を形どりそれを子供が楽しそうに想像するというイメージでマークを作りました。 色は元気な子供たちをイメージして全体的に濃いカラフルな色にしています。その色をそれぞれ細かく区切ることで、「キラキラした楽しそうな施設」「デジタル感」「子供たちがブロックのように施設を組み立てる」といったことを表しました。全体的に明るい雰囲気にすることでどの名称と並べても違和感がないようにしています。
15		ロゴマークの3本の結び目モチーフは、英文頭文字”Yukuhashi”の『Y』を表現し、『子どもが笑顔で身体を動かしている姿』を組み合わせでデザイン。7つcのolorはそれぞれのエリア（Forest・Town・Cloud・Sky・Mountain・Sea・Train）を意味し、本施設が幅広く市民に愛され、天候に左右されることなく、様々な年齢の子どもたちが安全・安心に遊び、多様な価値観を“結び繋げていく”という思いを込め、何度も訪れたくなる魅力あふれる施設を強調したロゴマークデザインです。
16		全体のヴィジュアルは、“子供たちの輝く笑顔”をイメージし、元気に本施設で身体を動かし天候に左右されることなく安全・安心に思いっきり体を動かし、魅力あふれる遊べる施設となることを意味しおり、円状に組まれた構成は、『笑顔の輪』&『光輝く生命の源：太陽』を表現しています。本施設を通して“笑顔の輪がひろがり”、何度も訪れたくなる魅力あふれる施設（場所）となることを願ったロゴマークデザインです。

行橋市室内型子どもの遊び場 シンボルマークリスト

※デザイン内に名称が含まれているロゴマークはこの応募で決定した名称へ修正する予定です。

番号	ロゴマーク	ロゴマークの説明
17		このロゴは、行橋の頭文字「ゆ」をモチーフにした一筆書きの線路が、まちの風景を巡るように構成されています。線路を走る電車には、旅の始まりのワクワクや未来への希望を込めました。周囲には、花咲く小道、魚が泳ぐ池、やさしく広がる山々など、行橋が持つ四季折々の自然やのどかな暮らしを描き出しています。 全体のフォルムはハート型に近づけ、まちへの愛着や、人と人がつながる温かさを表現。行橋を訪れる人、住まう人すべてにとって、“心が動き出す冒険”の入り口となることを願ってデザインしました。
18		このロゴマークは、行橋市の豊かな海と山がひとつに寄り添い、子どもたちを優しく見守る姿を表現しています。 笑顔の表情とカラフルなドットは、遊び場で生まれるたくさんの楽しい時間と笑顔を象徴。子どもたちが安心してのびのびと過ごせる、愛され、安全で心地よい場所であることを伝えます。
19		行橋市の名産である「いちじく」をモチーフにしたフォルムを元に 遊び場のエリアのモチーフの「クラウド・マウンテン・フォレスト・タウン・シー・トレイン」を盛り込んだデザインに仕上げました。そして「スカイ」を飛んでいる鳥は、自由に遊び回っている子どもをイメージしています。 施設名としても応募している「ぷちぷちパーク（Petit Puchi PARK）」ですが ロゴとテイスト合わせてデザインしなかったため、名称も入ったロゴを応募させていただきましたがロゴ、名称のどちらかだけでの採用になっても嬉しいです！ 私も行橋で2歳のこどもを育てているので大きな室内遊び場ができるのを心待ちにしています！
20		市花であるコスモスと遊び場の中央のシンボリックな電車の線路をデザインして、“ワクワク”感や“冒険”を感じられるようなロゴとしました。 今川の桜並木や長井浜の海辺、四季折々の風景など、地域の自然を感じられる空間として、子どもたちがのびのびと遊び、笑顔が広がる場所になってほしいとの思いを込めました。